

平成25年10月27日(日) 日本を美しくする会

## 第200回 益田掃除に学ぶ会 お掃除通信

開催場所 江津高角小学校 校長 佐貫 弘

参加者数 18名 教頭

<b>1、代表世話人挨拶 山崎純</b>
今日は節目の200回、18年目になります。続けてこれた事はとても大切なことと思っております。
先回もご紹介しましたが、千葉掃除の会から3回読んだらサブリーダーになれるという資料が手元にありますので、興味のある方は是非読んでみてください。クエン酸のことも掲載してあります。
今日は少人数ですがトイレをきれいにしましょう
<b>2、体験感想発表</b>
・佐々木 昇さん(浜田市)
200回続けていてよかったと思います。一回一回は特に得になることはありませんが、人間として徳が積めるように思います。回を重ねれば何か見えて来るものがあります。続けることが大切ですね。
・町原 裕貞さん(益田市)
今日が200回ということは非常に感慨深いですね平成7年に鍵山さんと出会って、すぐ阪神大震災の掃除に出向きました。今まで余分にやっているのので200回以上になるでしょうが、来年1月は80歳になります。今後は掃除を仕事にしていきます
・高木 萌衣さん(高角小6年生・7回目の参加)
最初は汚くて臭くて嫌でしたが、磨いたりする内にきれいになってよかったです
・山田 果穂さん(高角小3年生・3回目の参加)
トイレ掃除楽しかったです

<b>2、体験感想発表</b>
・高木 康之さん(高角小父兄)
2回目の参加ですが、前回参加して感じたのはトイレは見たくなくて避けて通る所なので、こうしてトイレ掃除をするとトイレを見ることが出来、気づきがでます。家で掃除をする時は素手で自分のやる所と決めてやっています
・大居 誠子さん(高角小学校教職員)
始まる前に皆さんと一緒に読んで「何故トイレ掃除か」この言葉に感銘を受けました
・佐貫 弘さん(高角小学校校長)
今日はありがとうございました。今日、参加されている子供さんは過去3回とか7回参加されています。森信三先生が一つの学校で3人以上の仲間が出来たことは思いが達成されたことだと仰っていますが、まさにそう思います。今日は普段見えないところが見えて、今まで気づかなかったことに反省しております。11月13日に豊田詔子さんに学校に来ていただきますが、皆さんもお越し下さい。
・山田 典子さん(高角小父兄)
今日3回目です。子供の方から参加したいということで参加しました。どうかと見ておりましたが、親子共々楽しく和気藹々としてとてもよかったです
<b>3、ご案内</b>
毎月松江・出雲、下関、岩国、宇部、萩の月例会のご案内を頂いております。
ご参加のご希望がございましたら、前もってお問い合わせ下さい。
浜田・江津掃除に学ぶ会立ち上げました(毎月第二日曜日です) 事務局・岡崎 慎

<b>4、鍵山秀三郎相談役のお言葉</b>
<b>継続するための秘訣(正しく生きるより)</b>
人からすすめられた事を実践しても、それを継続するのはなかなか難しいものです。「三日坊主」とはよく言ったもので、最初は物珍しくて取り組むことができても、それを習慣にするのは簡単ではないわけです。なにかを継続するには、「工夫すること」が欠かせません。普通、単純なことは工夫する余地がないと思われていますが、そこを工夫するのです。例えば掃除は、もう工夫するところなどどこにもないと思われています。だから続かない訳です。その当たり前のこと、誰もが真剣に取り組んでいないことを工夫することが継続のエネルギーになります。工夫して改良していけば、気持ちが前向きになってやる気が起きてきます。つまらないと思っていたことが面白くなります。そうすれば長く続けることができるでしょう。それともうひとつ、継続するための秘訣があります。それは、自分の心のそこに絶えず「人を喜ばそう」という気持ちを抱いていることです。それが無い人は、いくら目先を変えて見ても継続することは出来ません。表面的な利益を求めて「これを習慣化すると得をする」というような考えで続けようと思っても、決してうまくいきません。また「誰か早く認めてくれないかな」と思ったり、打算とか名誉心とかを持ったりすると続かないのです。何故続かないかという、自分の期待が外れるからです。甘い期待というものはことごとく外れるものです。そこに打算や名誉心があると、期待が外れた瞬間に嫌になってしまいます。継続できない人はたいていそのような共通点があるものです。人生では、期待通りに行くことなど殆んどありません。その時に自分を奮い立たせてくれるものそれが「工夫」と「人を喜ばせたいという願い」です
<b>5、森信三先生の教え (終身教授録より)</b>
諸君！！この人生は二度とないのです。いかに泣いてもわめいても、その我々の肉体がひとたび壊滅したならば、二度とこれを取り返すことは出来ないのです。
したがってこの肉体の生きている間に、不滅の精神を確立した人だけが、この肉のからだの朽ち去った後にも、その精神はなお永遠に生きて、多くの人々の心に火を点ずることが出来るでしょう。